

## 2.2 Do(実施、実行)段階における有益な情報

### 2.2.1 モデル地域の設定

多くの計画では、設定した目標の実現に向けて、流域全体において関連主体が取り組みを進めている。一方、対策施策や設定目標の妥当性を確認したり、対策効果を早期に顕在化させて関係主体のモチベーション向上を図ること等を目的に、限定したモデル地区に集中的に対策を実施する場合もある。

なお、集中的に実施しようとする対策に住民協働の取り組みが伴う場合には、住民の問題意識が高く、核となる人や活動などの素地がある地域が比較的適している。

#### <解説>

##### (1) 対象領域全体を代表して特定の流域をモデル地域とした事例

やまぐちの豊かな流域づくり構想（榎野川モデル）では、県全域へのフィードバックを念頭に、上流域から下流域までの距離が比較的近く、中流域が盆地で比較的市街化されているという平均的な地理的条件を満たし、また、流域に暮らす人々が森・川・海のすべてを身近に感じられ、上中下流域間の連携が進めやすいという特性を踏まえて榎野川をモデル流域に設定しています。（事例の概要は 1.2 No.17 参照）

##### (2) 対策の効果を把握するための集中的な対策実施事例

印旛沼流域水循環健全化緊急行動計画では、効果を早期に確認するため、特定のモデル地域で集中的に対策を実施して結果を流域全体に展開する「みためし行動」を行っています。

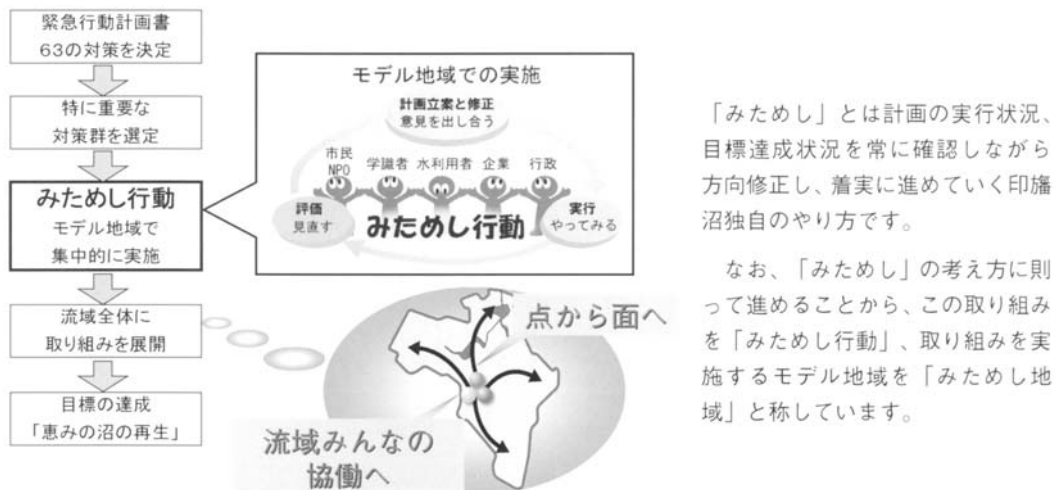


図 2-19 みためし行動の基本的考え方(平成 17 年度『みためし行動』活動報告書より引用)

表 2-10 みためし行動の実施状況と目的(平成 17 年度『みためし行動』活動報告書より引用)

表 1 実施中のみためし行動とその目的

みためし行動	みためし地域	目的
浸透系	加賀清水 (歴史ある湧水)	雨水浸透対策による湧水の復活
生活系	小規模団地 (34戸)	生活排水対策による水質改善
農地系	農地 (12.5ha)	環境保全型農業の普及
学び系	モデル校 (3校)	印旛沼をテーマとした環境教育の普及
冬期湛水	水田一カ所 (90a)	水田の冬期湛水の影響・効果確認
生態系	手繰川水系・桑納川水系	流域の水草の分布把握と保全方策確立
企業系	流域全体	企業と連携した印旛沼水循環健全化
印旛沼アダプト	流域全体	「市民連携プログラム」の策定
市町村みためし	(各市町村)	市町村主体のみためし行動

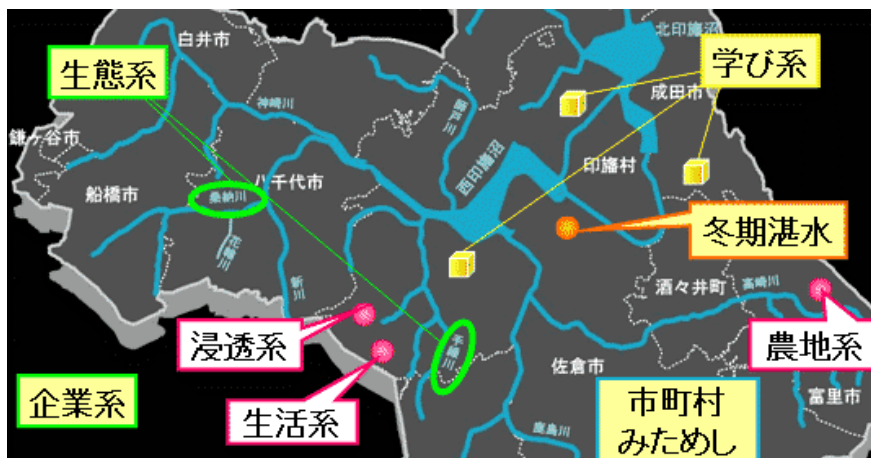


図 2-20 みためし行動の実施位置図(千葉県ホームページいんばぬま情報広場より引用)